

新年のご挨拶



肝付町長 永野 和行

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、コロナウイルス感染症が世界中でまん延しました。緊急事態宣言が発令され、学校の休校、店舗の休業、県をまたぐ移動の制限など、これまでに経験したことのない1年となりました。その後も、私たちの暮らしは、新しい生活様式によって変化し続けています。また、経済的なダメージも非常に大きく、国は経営維持・存続のための給付金や従業員を守るための特例措置など打ち出しました。町においても、全世帯へ生活支援のための商品

券を配布するとともに、農林水産業や福祉医療機関への支援給付、赤ちゃんや学生への手当てなど、町独自施策として町民と産業を守るための支援を実行しました。「それぞれの企業や産業の実情を把握し、苦しんでいる人々へ支援を惜しんではならない。大胆な支援策を検討してほしい。」と全職員へ指示し、混乱の中ではありましたが、総力を挙げて取り組みました。100年に1度との報道もある今回の危機に対して、コツコツと積み上げてきた財源を精一杯活用して、これからもこの難局に立ち向かってまいります。

また国は、今後5年以内に行政のデジタル化を進めると明言しました。幸いにも、本町は他自治体に先駆けて光通信網が張り巡らされており、デジタルインフラの整備が進んでいます。既にICTを活用したスマート農業やスマート畜産は実証から実装へ移行しつつあるとともに、小中学校へタブレット端末や電子黒板を配備したことにより、本格的な遠隔授業の実施が可能となりました。役場内でも電子決裁システムをいち早く導入しており、押印廃止やペーパーレス化、電子申請を推し進め、デジタル化の進展による豊かな生活の実現を目指しています。そのほかにも、子ども医療費助成の拡大や2次救急医療体制の整備を行い、子どもからお年寄りまで誰一人取り残さない、安心して暮

らせるまちづくりに努めてまいります。

結びに、感染症の早期終息を願いますとともに、町民の皆様お一人一人が健康で幸せな一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



↑町内小中学校全生徒にタブレット端末を配付